

《担当者名》三国久美 [mikuni@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

患者・家族のQOLの維持・向上に資することのできる看護援助の開発、提供を目指して、特論、演習、臨地実習、文献検討などを通して研究テーマ、研究課題を明確にした上で、研究計画を立案、適切な研究方法の選択により、倫理的配慮に基づいた看護研究を行い、修士学位論文としてまとめる。

【研究の範囲】

患者・家族の体験やニーズなど患者・家族理解に関すること、政策や制度の患者・家族の生活に及ぼす影響、効果的な看護の介入方法の開発、検討など、患者・家族の看護に資することができる内容であること。

【学修目標】

1. 先行文献の検討に基づき、研究課題を明確にできる。
2. 研究課題に適した研究デザインを選択できる。
3. 研究課題に照らして、一貫性があり実現可能な研究計画を作成できる。
4. 倫理的配慮に基づいたデータ収集および適切な分析ができる。
5. 研究成果を論旨一貫性のある修士学位論文としてまとめることができる。
6. 研究プロセスを研究ノートに適切に記載できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|----------------|---|-----|
| | 研究課題の明確化 | 先行文献のクリティークにより、研究課題の明確化をはかる。 主要な概念については分析を行う。 | 三国 |
| | 研究計画書の作成 | 研究課題の達成に適した研究デザインを選択し、倫理的配慮に留意し、研究を計画的に進めるための指針となる、実現可能な研究計画書を作成する。 | 三国 |
| | データの収集 | 倫理的配慮に基づいたデータ収集、管理を行う。 | 三国 |
| | データの分析 | 妥当な方法でのデータの分析、検討を行う。 | 三国 |
| | 論文作成 | 研究の一連のプロセスを、論旨一貫性のある論文にまとめる。 | 三国 |
| | 論文発表、調査協力者への報告 | 学位論文発表会においてポスター形式で発表し、参加者に説明、意見交換を行う。 調査協力者に結果を報告する。 | 三国 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

研究の準備状況、取り組み姿勢、研究法方法の選択や実施の適切性が50%、主査、副査からの論文に関する評価が50%。

【教科書】

なし。

【参考書】

随時提示する。

【学修の準備】

先行文献を精読し、疑問点や研究を進める上での自己の課題を明確にして、授業に臨むこと。